南 一 弘の

街を行く

第127回 河口湖／天下茶屋 *Kawaguchiko/tenkachaya*

こんな時、こんな場所で過ごしたい

暗く狭いトンネル（御坂隊道）を抜けると「天下茶屋」。なんとも風格ある造りですね

暗い話題の多い世の中なので、今回は少し趣向を変えて街を“出”ます。一息つける場所、山梨県河口湖を訪ねました（決してゴルフではありません！ ホテル開発用地の視察が目的です）。

美しい富士山を拝顔、後は名物の「ほうとう」でも食べようかなとネット検索しますと、「天下茶屋」という候補が出てきました。ルートをみると河口湖から茶屋へたどり着くまでに旧道をかなり登らねばなりません。いささか躊躇しましたが、折角来たのだからと覚悟を決めました。想像した通り、曲がりくねる道を緊張しながら上っていくことになりました。古いトンネル（隧道と言った方が良い）にも出くわします。対向車とすれ違えないほど道幅が狭く暗い道をさらに注意深く進みます。少しうんざり気味でトンネルを抜けた先にお目当ての茶屋が現れました。

時刻は午前11時過ぎ。程よい昼食時も店に他の客はなし。少し憂鬱となるも店の方が気さくに出迎えてくれすぐに緊張は解けました。店名物の「ほうとう」を注文。出来上がりを待ち眺める店からの景色は生憎の曇り模様。もう少し早ければ、晴れわたる絶景の富士山ビューが全面に楽しめるのだそうです。残念。

店の2階は「太宰治文学記念室」。「富士山には月見草がよく似合う」で知られる「富嶽百景」を書き上げたのがここ二階の六畳間なのだそう。天下茶屋という名の由来は昭和初期、ジャーナリストの草分け徳富蘇峰が新聞紙上でここを紹介する際にネーミングしたもので、以来多くの文人が訪れたそう。井伏鱒二も常連のひとりで、精神が衰弱した太宰を気にかけて連れてきたのが、かの名作誕生のきっかけだったというわけです。太宰もまたここを気に入り、店の主人に長期滞在を頼んだそう。私生活で色んなトラブルを起こしたからこそ、ここでの生活がやすらぎとなったのでしょうね。その後太宰は東京に戻り結局入水自殺という最期を遂げたわけですが、この茶屋のそばには井伏鱒二ら有志が「太宰治文学碑」を建立。いまも太宰の作品に魅せられたファンが訪ねてくるのだそうです。

ふと訪れただけの場所なのに、ここまで話が進んでいくのですから、「街を出る」ことも魅力だと、小生自身が感じさせられました。通常の連載内容とは少し違いますが、たまには良いものです。さらに新しいパターンもどんどん試していきますから期待してお待ちください。

最後に、天下茶屋で食べた「ほうとう」は、味だけではなく心の芯までほんのりさせてくれました。

南 一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。